

評価結果公表票

作成日 平成20年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	270500622
法人名	有限会社こころ
事業所名	グループホームこころ
所在地	五所川原市大字桜田字鴻ノ巣431-1 (電話) 0173-36-3001
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年9月21日

【情報提供票より】(平成19年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人白生会胃腸病院、川崎胃腸科内科医院、成田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「1. やさしさ えがおをわすれず なかよくらせるホームを目指します 2. 地域の一員として積極的に交流の場に参加して関わりを持てることをめざします」という理念を掲げており、行事の時には地域住民を巻き込む等の地域密着型サービスを意識した取り組みが行われている。
 栄養に関する本を購入して職員は知識を深めており、利用者一人ひとりの好みのほか、栄養バランスやカロリー等に配慮した献立を作成している。また、食事摂取量は記録するほか、水分摂取量も把握し、必要に応じて記録する等、利用者の健康管理に努めている。
 共用空間には季節の花や陶芸品等が飾られており、家庭的な雰囲気作りが行われている。また、居室にはテレビや位牌、ぬいぐるみ、家族の写真等が持ち込まれており、居心地のよい空間となっている。

【特に改善が求められる点】

外部研修受講後は報告書を基に伝達研修を行う等の取り組みを行っているが、これまでの職員の受講歴や外部研修開催の傾向を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
 全職員は虐待のないケアを実践しているが、虐待を発見した場合の報告の流れ等に関する取り決めが作成されていないので、取り決めを作成して職員間での共有を図ることに期待したい。
 災害時に備えて、夜間を想定した避難訓練や消防署との連携が図られているが、数日分の食料や飲料水等の備蓄品を用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果について話し合いを行い、包丁等の危険物品の保管場所を再検討する等、より良いホーム作りに向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議等で評価の意義を全職員に周知しており、自己評価を実施する際には職員全員で話し合った上で、管理者が完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2~3ヶ月ごとに開催しており、町内会長や民生委員等が参画している。会議では情報交換や自己・外部評価の結果を報告しており、委員の意見を求める等の働きかけを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の日々の様子が詳細に伝わるよう、受診状況等を記載している毎月の便りに個人宛のスペースを設け、写真を添付する等の工夫を行っている。ホーム内外の苦情受付窓口を文書に明示するほか、投書箱を設置し、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りを行っている。家族から意見等が出された時には、苦情処理手順に従って対応する仕組みとなっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から住民に声がけしたり、近隣の小学校の行事には積極的に参加するほか、パンフレットや行事案内を地域の掲示板に貼ってもらう等、地域との関わりを深めるための取組みを行っている。また、行事開催時には認知症やホームのことに関する質問に回答する等の対応も行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から住民に声がけしたり、近隣の小学校の行事には積極的に参加するほか、パンフレットや行事案内を地域の掲示板に貼ってもらう等、地域との関わりを深めるための取組みを行っている。また、行事開催時には認知症やホームのことに関する質問に回答する等の対応も行っている。</p>

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、全職員で話し合って地域密着の役割を反映させた理念を作成している。利用者への影響を考慮し、年1回2名程度の異動に留める等の配慮が行われている。また、職員の異動があっても対応できるよう、日頃から全職員が全利用者を把握するよう努めるとともに、異動時には職員間での引き継ぎや利用者への説明を行っている。</p> <p>職員の資質向上のために、年1回は外部研修に参加できるよう勤務体制を調整するほか、市内の老人福祉施設との交流を図っており、得られた知識や気づきは日々のケアに反映させるよう努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>家族やケアマネジャー等から入居前の健康状態や家で過ごしてきた状況等を聞き、利用者を把握するよう努めている。</p> <p>利用者の行動を観察して、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めるほか、利用者や職員が支え合いながら生活することを基本としているため、個々の力量等に応じて掃除や洗濯、調理の手伝いなどを行ってもらっている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々の関わりや家族からの情報を基に一人ひとりのニーズ把握に努めるほか、職員間での話し合いを行って、利用者にとって負担にならない介護計画を作成している。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、24時間体制で対応してもらえる医療機関を確保しており、受診結果は便り等を通じて家族に報告している。また、重度化や終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理や緊急時の対応等については家族との意思統一が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>起床や食事、入浴等、一日のおおよその流れはあるが、利用者のその人らしい生活を支援するため、言動を急かすことなく、ゆったり対応するよう努めている。</p> <p>食事の準備や後片付けはできる範囲で利用者に手伝ってもらったり、職員も一緒に食事を摂って会話を交わす等、楽しい食事時間となるよう配慮している。</p> <p>内部研修等で身体拘束の内容や弊害について理解を深めており、拘束のないケアを実践するとともに、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の対応を整えている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域との結びつきの重要性を理解している。職員全員で検討し、「1. やさしさ えがおをわすれず なかよくらせるホームを目指します 2. 地域の一人として積極的に交流の場に参加して関わりを持てることをめざします」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	行事の時には地域住民を巻き込むよう、職員会議で話し合いを行うほか、利用者には尊敬の気持ちを持って接する等、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民に日頃から声がけするほか、近隣の小学校の行事には積極的に参加している。また、パンフレットやホームの行事案内を地域の掲示板に貼ってもらう等、住民との関わりを深めるための取り組みを行っている。行事開催時には認知症やホームのこと等に関する質問に回答するなどの対応を行っている。外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の狙いや活用方法等について周知しており、職員は理解している。自己評価を実施する際には職員全員で話し合い、その結果を管理者がまとめている。前回の外部評価の結果についても話し合いを行っており、包丁等の危険物品の保管場所を再検討する等、より良いホームに向けた取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3か月ごとに開催しており、町内会長や民生委員、市介護保険課、地域包括支援センター、警察署員、家族の代表等が参画している。会議では情報交換や評価結果の報告等を行い、出された意見は今後のケアに反映させるよう努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等を活用してホームのパンフレットを配布したり、自己・外部評価の結果を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者等が地域福祉権利擁護事業等に関する外部研修に参加し、その資料や内容を他の職員に伝達しているため、職員は制度の概要を理解している。また、必要に応じて利用者や家族に制度について説明できる体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修に参加した職員が他の職員に伝達しており、職員は虐待について理解している。管理者は虐待のないケアに努めるよう職員に周知徹底を図っているが、虐待を発見した時の対応等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	全職員で話し合いを行う等、虐待を発見した場合の報告の流れや対応等に関する取り決めを作成し、職員間で共有することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には利用者や家族にホームを見学してもらうほか、十分に説明を行い、不安を与えないよう対応している。契約改訂時には面会時や電話等で説明を行っている。また、退居時にも十分に説明を行っており、必要に応じて退居後の施設に関する説明などを行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の利用料支払い時に利用者の様子を見てもらうとともに、写真を掲載した便りを送付している。また、金銭管理状況については毎月家族に確認してもらうほか、職員の異動等についても随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は笑顔で対応する等、家族が話しかけやすいような雰囲気作りを行っている。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、投書箱を設置する等、家族に意見等を話してもらえるよう工夫している。家族から意見が出された時には苦情処理手順に従って対応する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、職員の異動は最小限に留めており、年1回2名程度の異動となっている。職員の異動時に備えて全職員が全利用者を把握するよう日々努めるとともに、異動時には職員間の引継ぎや利用者への説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の悩みについては管理者が対応している。利用者へより良いサービスを提供するために職員の資質向上に取り組んでおり、年1回は外部研修に参加できるよう勤務体制等に配慮している。研修受講後は報告書を基に伝達研修を行い、職員間での共有に努めているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの職員一人ひとりの受講歴や外部研修開催の傾向を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の老人福祉施設との交流を図っており、見学や情報交換等を行っている。交流を通じて得られたことはホームの運営に取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族やケアマネジャー等から入居前の健康状態や食欲、家で過ごしてきた状況等を聞いており、利用者を把握するよう努めている。また、入居前には見学してもらう等、利用者が早くホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の行動を観察する等、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、利用者と職員と一緒に支え合いながら生活することを基本としており、個々の力量や得意分野を考慮した上で、掃除や洗濯、調理の手伝い等を行ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伝える利用者は少ないが、日々の関わりや家族からの情報により、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態や家族の要望等を把握するとともに、職員間でカンファレンスを行い、利用者一人ひとりにとって負担にならない介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヵ月ごとに見直しを行うほか、状態等の変化時には随時の見直しを行っている。見直しの時には利用者や家族の意向を把握するほか、職員間で話し合いを行う等、再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を把握し、数名ずつでの通院介助や、買い物等への外出支援を行っている。また、希望によっては新たに支援体制を整えることもできる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、24時間体制で対応してもらえる医療機関も確保している。受診結果は家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理はかかりつけ医や協力医療機関で対応してもらうほか、急変時の対応についても利用者や家族との同意が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への接し方について日々職員同士で注意し合っており、一人ひとりの性格等に応じた対応を心がけるほか、利用者の言動を否定せず、羞恥心やプライバシーに配慮したケアを提供するよう努めている。また、職員は研修等を通して個人情報保護法について理解しており、家族の了解を得た上でネームプレートを掲示したり、個人に関する記録は事務室に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、訴えを優先してケアするよう努めている。また、起床や食事、入浴等、一日のおおよその流れはあるが、その日の一人ひとりの状態に合わせた柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌い等に配慮して献立を作成している。食事の準備や後片付けはできる範囲で利用者に手伝ってもらうほか、職員も一緒に食事を摂っており、会話を楽しみながらも必要に応じてサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴となっているが、希望に応じて柔軟に対応している。また、仲の良い利用者同士で入浴を楽しむ方もいる。入浴を拒否する利用者には時間を見て再度促す等の対応を行うほか、入浴時には職員が必ず付き添い、安全に入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を詳細に把握できるアセスメント方法をとっている。把握した情報を基に掃除や買い物、花壇の手入れ、野菜作り等を促しており、楽しみや役割を持ち、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物やドライブ等に出かけている。また、一人ひとりの身体状況に応じて車椅子やシルバーカーを使用する等の配慮も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や会議等を通して身体拘束による弊害などについて理解を深めており、拘束のないケアを実践している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、理由等を記録したり、家族の同意を得る等の体制が整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠しておらず、また、居室にも施錠しておらず、利用者は自由に入出入りすることができる。外出傾向を察知できるよう職員は見守りを行っており、察知した時には職員が付き添う等の支援を行っている。また、やむを得ず施錠する場合には家族に説明して同意を得る仕組みとなっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、1回は消防署の協力を得、もう1回は夜間を想定した訓練を実施しているが、災害時に備えた食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	非常時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量は毎日チェックし、水分摂取量については必要時に記録している。栄養に関する本を購入し、職員が勉強しながらバランスやカロリーに配慮した献立を作成しているが、栄養士等の専門家からの助言を得る体制を整備するまでには至っていない。	○	保健所等との連携を図るなど、職員の日々の取り組みを定期的にチェックしてもらう体制を整えてはどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されており、最新の情報がいった時は見直しを行っている。また、年数回は会議や内部研修を通じて感染症に関する理解を深めている。感染症に関する情報や利用者や家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な調度品を置いたり、玄関には季節の花が植えられたプランターを置く等、落ち着いた雰囲気作りを行っている。また、テレビ等の音量や室内の照明、明るさも適当である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品を持ってきてもらうよう家族等に働きかけており、テレビや位牌、ぬいぐるみ、暦、家族の写真等のなじみの物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。